本所工科 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科

国語 科目 言語文化

教科：国語

科目：言語文化

単位数：1 単位

対象学年組：第1学年 A組～ B組

教科担当者：

使用教科書：（東京書籍『新編言語文化』）

教科 国語

の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者とのかかわりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 言語文化

の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
		話	聞	書 読					
A「言語文化」を学ぶにあたって 【知識及び技能】「言語文化」を学ぶ目的をよく理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 【思考力、判断力、表現力等】「言語文化」で、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身に付ける。 【学びに向かう力、人間性等】「言語文化」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付ける。	1「言語文化」の目標を学び、授業の取り組み方や、持ち物、評価の観点等について理解する。 2どのような言語文化に触れてきたか、またこの授業でどのような内容について学びたいかを発表させる。	○			【知】「言語文化」を学ぶ目的をよく理解し、社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けている。 【思】「言語文化」では、何をどのように学ぶのかを適切に思考・判断し、その結果を適切に相手に伝える表現力を身に付けている。 【態】「言語文化」を学ぶ目的を理解し、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を身に付けている。	○	○	○	1
B「古文に親しむ」 【知識及び技能】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 【学びに向かう力、人間性等】 ・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って古文のリズムや調子を感じ取ろうとする。	1古文と現代文の違いについて確認する。 2古文の代表作品の冒頭を音読する。 3現代とは仮名遣いが違うことを知る。 4暗唱し、古文のリズムや調子を体感する。（手引き1・2）	○	○	○	【知】 ・言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 ・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 【思】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 【態】 ・進んで音読して古典の世界に親しみ、学習課題に沿って古文のリズムや調子を感じ取ろうとしている。	○	○	○	7
C「漢字の読み書き」 【知識及び技能】 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとする。	1部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。 2小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。 3学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。			○	【知】 常用漢字の読み慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。 【態】 ・自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会で必要な読み書きの能力を身につけようとしている。	○		○	2
定期考査						○	○		1

1
学
期

2 学 期	<p>d「羅生門」</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使えるようになる。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、学習課題に沿って、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとする態度を養う。 	<p>1 全文を通読し、時代背景を確かめる。(手引き1)</p> <p>2 場面の变化に注意して、本文全体を四つの意味段落に分ける。</p> <p>3 第一段を読み、「下人」の内面の状態をまとめる。(手引き3-1)</p> <p>4 「作者」の説明に従って、「下人」の行動を順を追って整理する。</p> <p>5 「下人」の内面の变化を順を追って整理する。(手引き2)</p> <p>6 第二段を読み、「下人」の目が捉えた「羅生門」の楼上の情景を整理する。</p> <p>7 「下人」と「老婆」について、比喩で表現した箇所を抜き出し、比喩の効果について考え、まとめる。</p> <p>8 第三段、第四段を読み、「下人」と「老婆」の行動を順を追って整理する。</p> <p>9 「なるほどな、……大目に見てくれるである。」に述べられた「老婆」の主張について考え、それを聞いた「下人」が「引剥ぎ」をしようと思った理由を考える。(手引き4・言語活動1)</p> <p>10 「下人」の内面の变化を、变化のきっかけと関連づけながら、整理する。(手引き2・3-2・4)</p> <p>11 「黒洞々たる夜」という表現に留意して、「老婆」のその後について考える。</p> <p>12 「下人の行方は、誰も知らない。」という終わりを踏まえて、「下人」がその後、どうなったのかを想像し、話し合う。(手引き5)</p> <p>13 小説の主題について、自分なりに考えて文章にまとめた後、発表する。</p>		<p>【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 <p>【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 進んで本文の構成や場面の展開、表現の特色を捉え、学習課題に沿って、登場人物の心情の変化を読み取り、主題について考えようとしている。 	○ ○ ○	10
	<p>E「漢字の読み書き」</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会に必要な読み書きの能力を身につけようとする。 	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。</p> <p>2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。</p> <p>3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>	○	<p>【知】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができている。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会に必要な読み書きの能力を身につけようとしている。 	○ ○	4
	<p>C「漢字の読み書き」</p> <p>【知識及び技能】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会に必要な読み書きの能力を身につけようとする。 	<p>1 部首や熟語の構成、熟語の意味を学ぶ。</p> <p>2 小テストを行い、学習の習熟状況を確認する。</p> <p>3 学習の習熟に遅れがみられる場合には課題を課したり、補習を行ったりして個別指導を行う。</p>	○	<p>【知】</p> <p>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使うことができている。</p> <p>【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで、常用漢字の読み・書きを学習し、実社会に必要な読み書きの能力を身につけようとしている。 	○ ○	3
	定期考査				○ ○	1

本所工科 高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 数学 科目 数学 I

教科： 数学 科目： 数学 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 1 学年 A 組～ B 組

教科担当者：

使用教科書：（ 数 I 708 「高校数学 I」 実教出版 ）

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う

科目 数学 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、2次関数、三角比、集合と論証、及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
整式 【知識・技能】 ・単項式と多項式について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・同類項をまとめることや、かっこを外すことを利用して、整式の加法・減法を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数の計算に加法・減法が利用できることに興味を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。	1章 数と式 1節 整式 1. 文字を含んだ式のきまり 2. 整式 3. 整式の加法・減法 整式の加法・減法について理解を深める。公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・単項式と多項式について理解できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・同類項をまとめることや、かっこを外すことを利用して、整式の加法・減法を考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数の計算に加法・減法が利用できることに興味を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	6
整式 【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉える。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・乗法公式の理解を深めることができ、その計算に公式を利用しようとしている。	1章 数と式 1節 整式 4. 整式の乗法 整式の乗法について理解を深める。公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉える。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・乗法公式の理解を深めることができ、その計算に公式を利用しようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
展開 【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 ・式の展開を、公式を利用して処理することができる。 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・式の展開に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に乗法公式が利用できることに興味を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。	1章 数と式 1節 整式 5. 乗法公式による展開 式の見方を豊かにし、公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・乗法公式の理解を深めることができる。 ・式の展開を、公式を利用して処理することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・式の展開に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に乗法公式が利用できることに興味を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	8
因数分解 【知識・技能】 ・因数分解の公式の理解を深めることができる。 ・因数分解を、公式を利用して処理することができる。 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 ・式の展開と因数分解の相互の関係がわかる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・因数分解に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に因数分解の公式が利用できることに興味を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。	1章 数と式 1節 整式 6. 因数分解 式の見方を豊かにし、公式などを利用して式の展開や因数分解を効率よく計算できるようにする。	【知識・技能】 ・因数分解の公式の理解を深めることができる。 ・因数分解を、公式を利用して処理することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・特定の文字に着目したり、式を1つの文字で置き換えたりして、式を多面的に捉えることができる。 ・式の展開と因数分解の相互の関係がわかる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・因数分解に関心を持ち、目的に応じて式を変形しようとしている。 ・数の計算に因数分解の公式が利用できることに興味を持ち、その計算に公式を利用しようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	9
定期考査			○	○		1

2 学 期	実数 【知識・理解】 ・数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の四則計算ができる。 ・分母の有理化ができる。 ・いろいろな数を、自然数、整数、有理数、無理数で分類することができる。 【思考・判断・表現】 ・分数が、有限小数や循環小数で表される仕組みを考察することができる。 ・分母を有理化する意義がわかる。 ・循環小数を分数で表すことを考察できる。 ・数を拡張してきた過程や数の四則計算の可能性について考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の計算に関心をもち、いろいろな計算に積極的に取り組もうとしている。 ・数の体系を実数まで拡張する意義に気付くとともに、数を拡張していく過程に関心をもち、調べようとしている。	2節 実数 1. 平方根とその計算 2. 実数 ・数を実数まで拡張することの意義を理解し、実数の概念や平方根を含む計算の基本的な考え方について理解する。 ・分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを理解する。 ・数を実数まで拡張することの意義を理解し、実数の概念や平方根を含む計算の基本的な考え方について理解する。 ・分数が有限小数や循環小数で表される仕組みを理解する。	【知識・理解】 ・数を実数まで拡張することの意義を理解している。 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の四則計算ができる。 ・分母の有理化ができる。 ・いろいろな数を、自然数、整数、有理数、無理数で分類することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・分数が、有限小数や循環小数で表される仕組みを考察することができる。 ・分母を有理化する意義がわかる。 ・循環小数を分数で表すことを考察できる。 ・数を拡張してきた過程や数の四則計算の可能性について考察できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ $\sqrt{\quad}$ を含む式の計算に関心をもち、いろいろな計算に積極的に取り組もうとしている。 ・数の体系を実数まで拡張する意義に気付くとともに、数を拡張していく過程に関心をもち、調べようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	15
	定期考査			○	○		1
	2次関数 【知識・理解】 ・2次関数のグラフの特徴を理解できる。 ・2次関数の式から、そのグラフをかくことができる。 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)することができる。 【思考・判断・表現】 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)したうえで、そのグラフをかくことができる。 ・2次関数の式とグラフとの関係について、平行移動の考えを用いるなどして多面的に考察できる。 ・コンピュータなどを使って、いろいろな2次関数のグラフをかき、その特徴を調べることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身の回りの現象で、関数の関係になっているものを調べようとしている。 ・2次関数のグラフについて、中学校で学んだ1次関数のグラフをふり返って考えようとしている。	2章 2次関数 1節 関数とグラフ 1. 1次関数とそのグラフ 2. 2次関数とそのグラフ ・関数の概念について理解し、2次関数のグラフがかけられるようにする。	【知識・理解】 ・2次関数のグラフの特徴を理解できる。 ・2次関数の式から、そのグラフをかくことができる。 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)することができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・ $y=ax^2+bx+c$ の式を $y=a(x-p)^2+q$ の形に変形(平方完成)したうえで、そのグラフをかくことができる。 ・2次関数の式とグラフとの関係について、平行移動の考えを用いるなどして多面的に考察できる。 ・コンピュータなどを使って、いろいろな2次関数のグラフをかき、その特徴を調べることができる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・身の回りの現象で、関数の関係になっているものを調べようとしている。 ・2次関数のグラフについて、中学校で学んだ1次関数のグラフをふり返って考えようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	15
定期考査			○	○		1	
3 学 期	2次関数 【知識・理解】 ・2次関数の最大値・最小値が理解できる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 【思考・判断・表現】 ・定義域に制限がある2次関数の最大値・最小値について考察できる。 ・日常の事象について、2次関数の最大値・最小値を利用して考察できる。 ・2次不等式を解く際に、簡単に因数分解できない2次式について、2次方程式の解の公式を利用して考察できる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小を活用しようとしている。 ・1次関数のグラフと1次方程式との関係をふり返って2次関数のグラフと2次方程式との関係を考えようとしている。 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いて、2次関数のグラフ・2次方程式・2次不等式の関係をふり返ってまとめようとしている。	2節 2次関数の値の変化 1. 2次関数の最大値・最小値 2. 2次関数のグラフと2次方程式 3. 2次関数のグラフと2次不等式 ・2次関数の値の変化についてグラフを用いて考察し、その最大値や最小値を求められるようにする。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解するとともに、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。	【知識・理解】 ・2次関数の最大値・最小値が理解できる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 ・2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【思考・判断・表現】 ・定義域に制限がある2次関数の最大値・最小値について考察できる。 ・日常の事象について、2次関数の最大値・最小値を利用して考察できる。 ・2次不等式を解く際に、簡単に因数分解できない2次式について、2次方程式の解の公式を利用して考察できる。 (発問評価・課題提出・定期考査) 【主体的に学習に取り組む態度】 ・具体的な事象の考察に2次関数の最大・最小を活用しようとしている。 ・1次関数のグラフと1次方程式との関係をふり返って2次関数のグラフと2次方程式との関係を考えようとしている。 ・ $D=b^2-4ac$ の符号を用いて、2次関数のグラフ・2次方程式・2次不等式の関係をふり返ってまとめようとしている。 (授業態度・課題提出)	○	○	○	12
	定期考査			○	○		1
							合計
						78	

本所工科高等学校 令和 7年度（1学年用）

外国語 科目 英語コミュニケーションⅠ

教科：外国語 科目：英語コミュニケーションⅠ 単位数：2 単位

対象学年組：第 1 学年 A 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（ ALL Aboard English Communication Ⅰ 東京書籍 ）

教科 外国語 の目標：

【知識及び技能】聞く、話す、読む、書くことによる適切なコミュニケーションの技能を身に付けている。

【思考力、判断力、表現力等】外国語で話し手や書き手の意図を的確に理解したり、表現したり、伝え合っている。

【学びに向かう力、人間性等】外国語の背景にある文化に対する理解を深め、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図る

科目 英語コミュニケーションⅠ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
外国語についての音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けている。	具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現することができる。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域					評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		聞	読	話 〔 や 〕	話 〔 発 〕	書					
<p>【知識及び技能】身近な日常生活の中にある英語の単語を書き、発音を確認する。英語のアルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を学習し、実際に使ってみる</p> <p>【思考・判断・表現】教室で使う表現について、使い方や場面を正しく理解し、適切に使うように導く。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】覚えた表現を積極的に使う。辞書を効率的に活用して、意思の伝達を試みる努力を養成する。</p>	<p>○Warm-Up 1アルファベット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の中にある英語の単語を書き、発音を確認する。 ・英語のアルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。 <p>○Warm-Up 2教室で使う表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を学習する。 <p>【言語活動】英語のアルファベットを使って単語を正確に書き、発音する。授業における典型的な場面でよく使われる英語表現を理解し、実際に使ってみる</p>	○	○	○	○	○				6	
<p>【知識及び技能】辞書の使い方と役に立つ用語について学習する。また、疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。辞書を使って単語を調べられるようにする。また、疑問詞のある疑問文と答え方を学習する。be動詞、一般動詞を用いた文の形・意味・用法を理解する。</p> <p>【思考・判断・表現】自分の性格や特徴、日常の行動を整理して、相手が理解しやすいように努める。</p>	<p>○Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko</p> <p>○Pre-Lesson 2 I Like Junk Food!</p> <p>一般動詞の用法について学習し、Be動詞との違いにしっかり理解させる。</p>	○	○	○						8	
<p>【知識及び技能】動詞の過去形を用いた文の形・意味・用法を理解する。また、世界の朝食について学んだ事柄や好きな食べ物について、自分の考えや好み、その理由などを整理・理解する。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】世界の朝食についての知識を基に、好きな食べ物について、相手の意見を聞き、自分の考えをまとめようとする態度を養う。</p>	<p>○Lesson 1 Breakfast around the World</p> <p>世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。</p> <p>【言語材料】過去形の用法を理解する。</p> <p>【言語活動】好きな食べ物について、英語で述べることができる。</p>	○	○	○	○	○				13	

本所工科高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 A組

教科担当者：

使用教科書：高等学校 新公共（第一学習社）

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 現代の諸問題を理解するための手掛かりとなる概念や理論について習得するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に獲得できるようになる。特に、現代の社会で生きる基礎となる憲法の成立や意義、その問題などについて理解を深める。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代社会の諸問題の理解のために、選択・判断の手掛かりとなる考え方や基本的な概念を駆使して、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら自身の考えを表現し、他者と意見交換ができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 よりよい社会の実現を視野に、民主的な国家・社会の担い手となるべく、現代の諸問題を主体的に学ぼうとしている。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
公共的な空間で生きていくための人間としての生き方や原理について過去の哲学者の思想を理解する。そのために基本となる日本国憲法の原理や経済活動の基本的な知識を身につける。また、現代の諸課題について理解する。	公共的な空間で生きていくための人間としての生き方、原理について、過去の哲学者の思想を踏まえつつ、自らの考えを表現できる。また、現代の諸課題について、具体的な問題の背景や構造を説明できる。	公共的な空間で生きていくための人間としての生き方、原理を獲得するために、主体的に学ぼうとしている。また、現代の諸課題が何かについて積極的に調べようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1 学 期	第一編 公共の扉 1. 公共的な空間をつくる私たち 2. 人間としてのあり方 【知識及び技能】 ・ 青年期における心の在り方やフロイトの防衛機制、葛藤の種類、発達課題におけるアイデンティティの意味を理解させる。 ・ 伝統文化の意義や日本古来の信仰・祭祀にどのようなものがあるか理解させる。 ・ 正義に関する判断基準となる行為の道徳主義と帰結主義が何かについて理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ 青年期とは人生においてどのような時期であるかについて自分なりの考えを表現できる。 ・ 古来からの日本の信仰・祭祀について説明できる。 ・ トロッキ問題などについて、どのように判断するか、自らの考えを述べることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 上記の事柄について自ら積極的に考え、調べようと努力できる。	・ 指導事項 青年期の課題 伝統文化との関わり 正義論 ・ 教材 教科書とワーク	【知識・技能】 ・ 定期試験 ・ 授業での発言 【思考・判断・表現】 ・ 定期試験 ・ 授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ レポートの提出 ・ 授業での取り組み状況（ワーク提出）	○	○	○	13
	定期考査			○	○		1
	第一編 公共の扉 3. 公共的な空間における基本原理 第二編 社会に参画する私たち 1. 法的な主体となる私たち 【知識及び技能】 ・ 社会契約説について、これがどのような思想なのかを理解させる。 ・ 民主主義と国民主権の関係、また、直接民主制と間接民主制の違いを理解させる。 ・ 日本国憲法の成立過程やその特徴を理解させる。 ・ 日本国憲法に規定される基本的人権の意義を理解させる。 ・ 日本国憲法の自由権の具体的内容について理解させる。 ・ 消費者としての契約の意義や注意すべきことについて理解させる。 ・ 日本の裁判制度や司法参加の意義について理解させる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・ ホブズ・ロック・ルソーの社会契約論の違いを説明することができる。 ・ 民主主義に関わる法の支配や立憲主義の理念について説明できる。 ・ 日本国憲法を明治憲法と比較しつつ、その成立過程や特徴を説明できる。 ・ 日本国憲法の基本的人権の規定に関して三菱樹脂訴訟の意義を説明できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・ 上記の事柄について自ら積極的に考え、調べようと努力できる。	・ 指導事項 社会契約説 直接民主政と間接民主政 日本国憲法の成立 日本国憲法の自由権 消費者契約と問題 司法参加と裁判制度 ・ 教材 教科書とワーク	【知識・技能】 ・ 定期試験 ・ 授業での発言 【思考・判断・表現】 ・ 定期試験 ・ 授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ レポートの提出 ・ 授業での取り組み状況（ワーク提出）	○	○	○	14
定期考査			○	○		1	

2 学期	<p>第二編 社会に参画する私たち</p> <p>2. 政治的主体となる私たち</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現代日本の選挙制度と現状の課題について理解させる。 ・政党の意味と役割について理解させる。 ・国会と内閣の意味と役割の違いについて理解させる。 ・近代国家の意味や近代の国際法について理解させる。 ・国境はどのように決定されているかについて理解させる。 ・国際連合の成立と役割について理解させる。 ・平和主義と日本の安全保障政策について理解させる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小選挙区制と比例代表制とメリットとデメリットについて説明することができる。 ・政治資金規正法の意義について説明することができる。 ・国会の現状の問題点や議院内閣制について説明できる。 ・国家の3要素や排他的経済水域の意義について説明できる。 ・日本の現在の領土問題について何が問題とされているかについて説明できる。 ・国際連合の問題点と限界について説明できる。 ・日本国憲法9条と安全保障との関係について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 選挙制度 政党政治 国会と内閣 国境と領土問題 国際連合 平和主義と日本の安全保障 ・教材 教科書とワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出） 	○	○	○	14
	定期考査			○	○		1
3 学期	<p>第二編 社会に参画する私たち</p> <p>3. 経済的主体となる私たち</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦期から現代のグローバル社会に至るまでの国際社会の変容過程を理解させる。 ・移民や難民とは何かについて理解させる。 ・労働者の権利について、労働三権や労働基準法の意義を理解させる。 ・戦後の日本経済の動向を理解させる。 ・企業の基本的な活動とその社会的役割について理解させる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・冷戦の構造を説明できる。 ・移民・難民と現代的諸課題との関係を説明できる。 ・現代日本の労働問題について、何が問題か説明できる。 ・戦後日本経済史を現代t日本の経済的な問題と関連付けて理解できている。 ・大企業と中小企業の違いやその現代的な課題について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 戦後の国際社会の歴史の変容 移民・難民問題 労働者の権利と課題 戦後日本経済史 企業の役割と責任 ・教材 教科書とワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出） 				14
	定期考査			○	○		1
3 学期	<p>第二編 社会に参画する私たち</p> <p>3. 経済的主体となる私たち</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場経済のしくみを理解させる。 ・市場価格の決定について理解させる。 ・国民所得と経済発展の関係を理解させる。 ・金融理論について理解させる。 ・日本の財政制度と税のしくみを理解させる。 ・国際収支と国際経済tの特徴を理解させる。 ・現代世界で起こっている諸問題について理解させる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済と社会主義経済の違いを理解させる。 ・需要曲線・供給曲線の意味や官益について説明できる。 ・ケインズの経済思想について理解させる。 ・中央銀行と金融政策の意義について説明できる。 ・税の役割について説明できる。 ・地球温暖化や資源エネルギー問題について説明できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導事項 市場経済のしくみ 市場価格の決定 国民所得と経済発展 金融理論 日本の財政制度と税 国際収支と国際経済 ・教材 教科書とワーク 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・定期試験 ・授業での発言 【思考・判断・表現】 ・定期試験 ・授業での発言 【主体的に学習に取り組む態度】 ・レポートの提出 ・授業での取り組み状況（ワーク提出） 	○	○	○	19
	定期考査			○	○		78

本所工科高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 保健体育 科目 保健

教科：保健体育 科目：保健 単位数：1 単位

対象学年組：第1 学年

教科担当者：

使用教科書：（ 現代高等保健体育(大修館書店) ）

教科 保健体育 の目標：

【知識及び技能】各種の運動の特性に応じた技能及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、他者に伝える力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 保健 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けられるようにする。	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力あり生活を営む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	・国民の健康課題について我が国の死亡率・受療率・平均寿命・健康寿命等、各種の指標や疾病構造の変化を通して理解できるようにする。 ・喫煙や飲酒は、生活習慣病などの要因となり、心身の健康を損ねることを理解できるようにする。	・健康の考え方と成り立ち ・私たちの健康のすがた ・生活習慣病の予防と回復 ・がんの原因と予防 ・がんの治療と回復 ・運動と健康 ・食事と健康 ・休養・睡眠と健康 ・喫煙と健康	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・現代社会と健康における事象や情報などについて、健康にかかわる原則や概念をもとに整理したり、個人及び、社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析しリスクの軽減と生活の質の向上に必要な個人の取組及び社会的な対策を整理することができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
2 学期	・麻薬・覚せい剤・大麻等、薬物の乱用は心身の健康、社会の安全などに対して申告な影響を及ぼすことから決しておこなってはならないことを理解できるようにする。 ・適切な意思決定や行動選択には個人の知識・価値観・心理状態・および人間関係などを含む社会環境が関連していることを理解できるようにする。	・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・精神疾患の特徴 ・精神疾患の予防 ・精神疾患からの回復 ・現在の感染症 ・性感染症・エイズとその予防 ・健康に関する意思決定・行動選択 ・健康に関する環境づくり	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取り組みを個人への働きかけと社会環境への対策の面から分析したり、諸外国と比較したりして、防止策を評価することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・現代社会と健康について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができる。	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
3 学期	・適切な応急手当は傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できるようにする。 ・日常生活で起こる傷害や熱中症などの疾病の際には、それに応じた体位の確保・止血・固定などの基本的な応急手当の方法や手順があることを実習等を通して理解し、応急手当ができるようになる。	・事故の現状と発生要因 ・安全な社会の形成 ・交通における安全 ・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当 ・心肺蘇生法	【知識・技能】【思考・判断・表現】 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・安全な社会生活について、自他や社会の課題の解決方法と、それを選択した理由などを話し合ったり、ノートなどに記述したりして、道筋を立てて説明することができる。	○	○	○	6
	定期考査			○	○	○	1
				○	○	○	合計 39